

自然エネルギー勉強会の報告

(表面からのついき)

で使っている石油・石炭・天然ガスと原子力を合わせた量の1万倍の量が降り注いでいるのです。その中のわずか0.01%を置き換えれば、すべて賄えるのです。

自然エネルギーへのシフト(転換)をするときに大事なものは、地域の目線です。

デンマークでは風力発電がかなり普及していますが、日本で見られるような風力発電の反対運動というのはほとんどありません。その理由は、デンマーク全土で、地域の人たちの合意のもと、風車を造っている所といかない所を、最初から区分けしているからです。家の真ん前、野鳥の営巣地など真ん中、あるいは非常に風光明媚な場所を景観を台無しにするような所などは、最初から除かれているので、最初から反対運動の芽が90%くらいは取り除かれているんです。さらに、地域の人たちが中心となり、しかも売電の利益が地域に戻る仕組みになっているので、反対運動が起きにくく、みんな頑張って風車を造るという構図になっています。

上から目線でお金をつぎ込んでやるのではなくて、地域の住民が自立して、みんな話し合いながら自然エネルギーを作り上げていくことが大事です。行政まかせだと補助金を出す国も、補助金を受け取る地方自治体も、人事異動で2年毎に担当者が変わるたびに素人が来てしまい、素人が設計した補助金を素人が受け取るという、恐ろしい状況になります。それで、その間にいるコンサルタントとかメーカーは受注して売り上げを立てるだけで、結局そこに無責

任な企業が入る。・じつはこれが日本中でこれまで行われてきたことです。

ではどうするかというと、地域に、無責任構造ではない核を作るんです。ちょうど、アコヤ貝の中で真珠ができるときに、最初に小さな石のようなものがあって、それがだんだん大きく真珠に育っていくのと一緒です。地域の人で、逃げも隠れもできない核ができる、そこが中心となって、その人に、あるいはその人を中心とする組織に人が集まり、経験が蓄積され、信用力がついて、協力者のネットワークができて、分厚い真珠のようなものになっていく。こうして地域の中に、無責任な構図に陥らない、地域の核をつくるということが大事です。

Q. 国のモデル地区公募について紹介してください。

A. 環境省が、地域で再生可能エネルギーの普及拡大をするための仕組みづくりとして、モデル地区の公募を7月中旬に始める予定です。全国で5か所程度選ばれることとなります。ポイントは「地域に自然エネルギーの核をつくるための拠点づくり」で、そのための運営費を全額100%補助するという予算です。しかも一度決まったら3年間継続できます。3年のうちに、地域の拠点を形にしましょうという話です。上関で協議会というものを立ち上げて、地域の中でこれをやっていくという体制ができるようであれば、ぜひ応募して進めていただくといいのではないかと思います。

祝島では独自に自然100%の「千年の島づくり基金」を立ち上げて進めていますので、私のお奨めとしては、上関や室津を

中心に協議会を立ち上げて、ここから先はいろんな人のいろんなお考えがあるし、祝島の方のお考えもあると思います。願わくば協議会の一席に祝島の島づくり基金の人も座り、町全体として、これまで原子力をめぐることは、必ずしも考えが一緒でなかった人も乗っていただけのような、そんな協議会になれば、「じゃあ自然エネルギーでこれからやってみようじゃないか」という、そういう新しい出発点にできれば一番理想的だと思っています。

Q. 自然エネルギーを、上関町の人が中心になって取り組んでいく意義と、具体的にどういったメリットや雇用が生まれてくるか伺いたいですか？

A. 今までの経験から言って、地域で絶対必要なのは、地域出身の人なんです。中心には地域の外から来たよそ者は基本的にはなれないんです。町役場の人が、いろんな人と「〇〇ちゃん」と呼びあえるような仲の人、「まあ、あいつの言うことだからしょうがない、協力してやろうか」みたいな感じですね。それが悪名高い人は困りますけど、一応みんなに信用されているような人。あとは外から来る、よそ者、若者・インターンでも何でもいから、その人に協力するという形をとれば、徐々に体制ができていきます。

雇用としては、まずは地域で自然エネルギー普及の核になる組織のスタッフとしての雇用があります。自然エネルギーによるまちづくりの先進地である長野県飯田市では、まず地元の方一人を中心になっていたいて、東京から若者を送り込んだら、そのまま飯田市に住みついて、結婚までしま

した。飯田市の場合、今、10名くらいスタッフがいると思いますし、岡山県備前市にも同じような所があって、こちらも10名近くスタッフがいると思います。

このような内側の雇用だけじゃなくて、大事なものは地域の周辺に雇用と仕事とお金が回るということなんです。飯田市では、継続的に太陽光発電を地域に広げていく仕事をやっていますが、そこに飯田信用金庫が融資という形で協力してくれています。その飯田信金の理事長がいつもおっしゃるんですが、「おひさま進歩」さんにお金を貸すと、そのお金で飯田市内の工務店が工事をする。太陽光発電が設置された幼稚園とか保育園の人たちも飯田信金のお客さんだし、その出資をする人も飯田市内の人ということ、中心になる核だけじゃなくて、その核を中心に行われる工事が、基本的には地域の業者に回ります。孫請け、ひ孫請けといった雇われ仕事ではなく、地域で仕事をする人たちが、自分の自立的な意志で仕事ができるという形になると思います。

Q. 潮流発電は、まだ未来の話なんですか？例えば、上関で自然エネルギーだったら、大潮なんかだと計算できる潮の流れがあるじゃないですか。

A. 潮流発電は、まだ実用化のレベルに入っていないので、地域で取り組むにはリスクがあり過ぎます。

当面は風力や太陽光など、確立している技術で自然エネルギーに取り組むべきだと思います。

